



1_天神浜周辺に打ち上げられたゴミを丁寧に拾い集める参加者ら 2_猪苗代湖北岸での清掃活動の様子 3_親子で清掃活動に参加した金澤典子さん(左)と昊希さん

きれいな猪苗代湖を後世に

猪苗代湖クリーンアクション 2018 vol.1

町、県と県産業廃棄物協会による「猪苗代湖クリーンアクション 2018 vol.1」は4月14日、天神浜などで行われ、町内外から集まった約390人が清掃活動に取り組みました。開会式は天神浜駐車場で行われ、前後公町長が「猪苗代湖は福島県の重要な資源です。町としても、クリーンアップ活動など今後も水環境保全事業を進めていきます」とあいさつを述べました。

参加者は4班に分かれてそれぞれ天神浜、松橋浜、青浜、小黒川河口付近に移動。延べ約3キロにわたって湖岸に打ち上げられたゴミを丁寧に拾い集めました。

環境省の全国湖沼水質ランキングで平成14年から4年連続日本一に輝いた猪苗代湖。平成21年からは大腸菌群が環境基準を超過し、ランク外が続いていますが、猪苗代湖の水質保全に向けた取り組みは年々広がりを見せ、現在では行政や環境保全体、他、学校や企業など、さまざまな団体が清掃活動などに取り組んでいます。

会津若松市から参加した松長小4年の金澤昊希こうきさんは「いろいろなゴミが落ちていました。猪苗代湖をいつまでもきれいにしたいです」と話しました。

失敗を恐れず挑戦を

ノーベル賞大村氏が学びいなで講演

2015(平成27)年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智北里大学特別栄誉教授の講演会は4月14日、学びいなで開かれ、町内外の中高生ら約500人が聴講しました。講演会は、野口英世博士没後90年を記念して野口英世記念会が主催しました。

大村氏は「わたしの歩んできた道」と題して講演し、山梨県で生まれ、ノーベル賞を受賞するまでの経緯を紹介。大村氏は「失敗を恐れずに挑戦してほしい」と語りました。



講演する大村氏

野口博士を失った衝撃を紹介

野口英世没後90年記念特別展

野口英世記念館では、野口英世没後90年記念特別展Ⅰ「野口英世博士逝去セラル〜アフリカからの訃報〜」を7月8日まで開催しています。特別展では、野口博士が西アフリカ・アクラ(現ガーナ共和国)で黄熱病の研究中に亡くなった後、日本をはじめアメリカなど各国に訃報が伝わり、多くの人々が悲しみの中で語った言葉や報道により、野口博士を失った当時の衝撃が紹介されています。また、野口博士直筆の書4点が初公開されています。



野口博士が亡くなった当時の資料が並ぶ特別展



大勢の花見客でにぎわう観音寺川桜並木

Pick Up

今月のイベント

観音寺川桜まつり



観音寺川桜まつりは4月21日から5月6日まで、川桁地区の観音寺川桜並木周辺で行われ、町内外から大勢の人が訪れました。まつりの会場では、川桁謡真鼓楽会による太鼓の演奏やバンドの演奏などが行われました。観音寺川桜並木は、ソメイヨシノなど約200本が川の両岸に約1キロにわたって植えられ、清らかな観音寺川の流れを包み込むように桜の花が広がりました。今年は例年よりも桜の開花が早く、観音寺川桜並木でも4月20日頃から見頃を迎えました。今年も町商工会青年部とOB有志によるLED七色ライトアップが行われ、音楽に合わせて桜並木を色鮮やかに照らし出しました。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報猪苗代

May.2018
5
No.691

今月の表紙



【撮影日】4月23日
【撮影場所】町営磐梯山牧場

町営磐梯山牧場の桜並木です。満開の桜が道路を覆い隠すように咲き誇り、桜のトンネルができていました。枝の間から見える青空と桜のコントラストがとてもきれいです。

Contents — 【目次】

- 02 Pick up
- 04 109人の区長に委嘱状交付
- 05 職員紹介とあいさつ
- 06 平成29年度下半期財政状況
- 08 まちの話題
- 10 笑顔でこんにちは／地域おこし協力隊通信
- 11 スクールトピックス
- 12 いなわしろタウンページ
- 18 暮らしの情報広場
- 20 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー